

保護者の皆様及び生徒のみなさん

大阪府立天王寺高等学校
校長 西田 恵 二

令和5年度 学校評価アンケート（学校教育自己診断）回答のまとめ

向春の候、皆様には、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて本校は、日本や国際社会で活躍する真のリーダーを育成することをめざし、文武両道、授業第一、本物志向、鍛練主義を实践してさまざまな教育活動に取り組んでまいりました。これらの教育活動を発展させ、積極的に推し進めるため、昨年10月に「学校教育自己診断」を実施し、分析・検討を行いました。このたび、総括した結果がまとまりましたので、ここにお知らせします。

今後とも豊かで質の高い教育環境づくりをめざしておりますので、皆様の一層のご協力をお願いいたします。

生徒回答集計

回答数/（1年 350、2年 346、3年 337 回収率 97%）

「非常にそう思う」と「そう思う」という肯定的な意見の割合（%）を掲載している。

差・・・昨年度との%の差

分析・・・コメントを掲載している項目

	質問項目	R5	R4	差	分析
1	学校に行くのが楽しい。	91	92	-1	
2	学校での友人関係はうまくいっている。	96	96	0	
3	本校の様々な特色は、全体的に見て自分に合っている。	86	87	-1	
4	本校の活動にはリーダーシップの育成に役立つものがあると感じる。	91	90	+1	
5	本校の活動を通じて、他校と交流の機会がある。	70	54	+16	○
6	内容が分かりやすく、満足できる授業が多い。	92	94	-2	
7	学校の授業だけで、進路希望達成に必要な学力をつけてくれる。	78	79	-1	
8	授業の理解度に応じて、生徒が参加できる補習や講習が行われる。	93	96	-3	
9	教材や教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い。	95	96	-1	
10	課題研究等授業で ICT 機器を活用している。	91	89	+2	
11	いじめや学校生活の悩みや相談に親身になって応じてくれる教員がいる。	91	93	-2	
12	相談室や保健室に行きやすい。	73	75	-2	
13	学校生活についての先生の指導には納得できる。	82	78	+4	
14	将来の生き方や職業選択等について必要な情報を提供してくれる。	96	96	0	
15	大学生などの卒業生の話を聞く機会が多く、刺激を受ける。	91	90	+1	
16	専門家の講演会や大学の見学など、自分の進路に関わる行事が豊富である。	96	95	+1	
17	桃陰セミナー・部学習日・土曜講習があることは、土曜日の活用と自らの学習に役立っている。	75	80	-5	○
18	学校行事の多いことは、本校の特色として魅力的だ。	95	96	-1	
19	学校行事全般に対して、積極的に参加している。	93	92	+1	
20	行事等においてホームルーム活動に積極的に関わっている。	90	91	-1	○
21	部活動に参加している。（※右の数値は参加している生徒の割合）	99	92	+7	
22	部活動に積極的に取り組んでいる。（対象：20部活動に参加している生徒）	94	96	-2	○

23	部活動と勉強との両立ができている。(対象：20.部活動に参加している生徒)	79	82	-3	○
24	部活動での人間関係はうまくいっている。(対象：20.部活動に参加している生徒)	92	95	-3	○
25	本校の人権教育によって、人権についての意識が高まった。	87	86	+1	
26	命の大切さや社会のルールを学ぶ機会が多い。	89	85	+4	
27	清掃活動に取り組み清潔が保たれている。(R4) 清掃活動が行き届いていて、清潔である。(R3)	82	79	+3	
28	学校の施設・設備全般について、適切に整備されている。	79	70	+9	
29	学習講座は有意義である(1年4月)	89	89	0	
30	野外生活体験学習は有意義である。(1年7月)	95	93	+2	
31	水泳訓練は有意義である(1年7月)	94	96	-2	
32	社会人講演会は有意義である。(1年11月)	92	94	-2	
33	京大見学会は有意義である。(2年6月)	96	96	0	
34	修学旅行は有意義である。(2年10月)	98	99	-1	
35	課題研究は有意義である。(2年)	89	86	+3	
36	学部学科紹介は有意義である。(3年6月)	98	96	+2	
37	天高アカデミアは有意義である。	92	92	0	
	SSH, GL 事業は有意義である。	94	93	+1	

コロナの5類への移行を受け、本校の特色である多彩な行事が実施できるようになったことで、他校との交流機会という点(Q5)では16ポイントもプラスに転じた。ただ、中学時代がコロナ禍での生活だったせいや、行事と学習・部活動のバランスのとり方が分からない生徒(Q17,20,22,23)や、緊密な人間関係でのつまづきを見せる生徒(Q24)が一定数いると考えられる。生徒の状況を見ながら、コロナ禍以前の本校本来の学習・行事・部活動の在り方に戻れるよう引き続き検討していく。

保護者回答集計

回答数／(1年 314、2年 297、3年 236 回収率 79%)

「非常にそう思う」と「そう思う」という肯定的な意見の割合(%)を掲載している。

差・・・昨年度との%の差 分析・・・コメントを掲載している項目

	質問項目	R5	R4	差	分析
1	子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。	91	89	+2	
2	子供は自分のクラスが楽しいと言っている。	89	89	0	
3	学校の雰囲気がよく、子供たちが生き生きしている。	96	95	+1	
4	先生は子供を理解している。	89	87	+2	
5	この学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。	98	96	+2	
6	学校は、教育目標をわかりやすく伝えている。	94	92	+2	○
7	子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。	77	80	-3	
8	学習の内容や進度等を、懇談や通信などによって知ることができる。	83	80	+3	○
9	課題研究等授業で ICT 機器を活用している。	82	82	0	
10	学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる。	89	85	+4	○
11	学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してく	87	88	-1	
12	学校は子どもの命を大切にす心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。	93	93	0	
13	学校の生徒指導の方針に共感できる。	90	90	0	
14	子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる。	84	80	+4	○

15	学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。	95	94	+1	
16	進路指導面で学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている。	86	80	+6	○
17	学校は、教育情報について提供の努力をしている。	94	94	0	
18	学校行事は、子どもが積極的に参加できるよう工夫されている。	97	96	+1	
19	この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。	95	93	+2	
20	この学校の部活動は活発である。	98	97	+1	
21	学校は、環境、国際理解・福祉ボランティア等の新しい教育課題について学ばせている。	91	87	+4	
22	学校は、保護者が授業を参観しやすい工夫をおこなっている。	91	85	+6	○
23	学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。	91	90	+1	○
24	PTA 活動には参加しやすい。	70	62	+8	○

回答率が 79%と昨年度より 2%減ではあるが概ね高い関心を寄せていただいている。各質問に対しても肯定的な意見が多く寄せられ、本校の教育の在り方を保護者の方にもよく理解いただいているのではないかと考えられる。コロナ禍で制限されていた学校行事や P T A 活動 (Q22,24) についても今年度より一切制限なく実施できたことより大幅にプラスの評価となった。ご家庭と学校との情報交換・共有 (Q6,8,10,14,16,23) という点でも肯定的に捉えていただけており、学校の教育方針が保護者の方にも伝わっているものとする。様々な案内の電子化による配布を求める意見もあるが、学校からの紙での配布物を通して「ご家庭での会話のきっかけづくりとしていただきたい」という、本校の方針の一つをご理解いただきたいと考えている。

評価結果を受けての各分掌等での検討事項(抜粋)

1 学年

保護者のアンケートについては、全学年の平均値より 2%以上高い数値を示した項目は Q 1, 2, 4, 9, 10, 16, 22, 24 であった。特に 4「先生は子供を理解している」、10「学校は保護者の相談に適切に応じられる」、16「進路指導面で学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」、22「学校は保護者が授業を参観しやすい工夫を行っている」、24「PTA 活動には参加しやすい」で学校平均よりも高くなっており、4, 10 については、担任が行ってくれている生徒との面談や保護者との懇談、16 については学校行事として行っている保護者向けの説明会などを好意的にとらえてくれていることがうかがえる。また、78 期の生徒は、中学時代がコロナ禍とかぶっており、22 や 24 の評価が上昇したものと思われる。来年度も保護者の方と連携して学年を運営していきたい。

2 学年

保護者アンケートの結果、肯定的回答の割合が学校平均値よりも 2%以上高い数値を示していた質問項目としては、Q12、Q23、だけであった。一方、2%以上低い数値を示した項目は Q2, Q4, Q7, Q14, Q15, Q16, Q17, Q24 と多数にわたった。自クラスが楽しい、教員は子どもを理解している、子どもは授業をわかりやすいと言っている、進路指導面で適切に情報発信をしている、などの項目で低い数値が出たことは反省すべき点である。

受験期を迎える次年度に向け、授業改善、生徒との関わり方の改善等、学年団で意思統一して取り組んでいきたい点である。一方で「プリント、HP、学年通信等で積極的に意思疎通を行っている」については学校平均よりもかなり高い数値を示しており、日々の取り組みを評価いただいている部分も多いことが伺える。今後、評価いただいた点を向上させ、ご指摘いただいた点を改善し、最高学年に向かっていきたい。

3 学年

生徒アンケートの結果、肯定的回答の割合が学校平均値よりも2%以上高い数値を示していた質問項目としては、Q6, Q12, Q13, Q15, Q17, Q19, Q20, Q22, Q23, Q24, Q25, Q29, Q30, Q31, Q32, Q33, Q34, Q35 と多くあった。

Q6「内容が分かりやすく、満足できる授業が多い」、Q12「相談室や保健室に行きやすい」、Q13「学校生活について先生の指導に納得できる」で高い数値を示した点については、76期が入学してから学年団を中心に多くの先生方が親身に生徒に関わってきた結果だとうかがえる。

保護者アンケートの結果、肯定的回答の割合が学校平均値よりも2%以上高い数値を示していた質問項目としては、Q7「子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている」だけであったが、他の全ての質問項目においては、学校平均並みであったので、保護者も学校の活動・指導にある一定の理解を示していることがうかがえる。卒業まで今までの方針を曲げずに生徒と向き合っていきたい。

教務部

授業や学習に関する設問については生徒、保護者とも概して高い。生徒6「内容が分かりやすく満足できる授業が多い」：92.1%（昨年比-2.3%）は「授業第一主義」という柱が教員・生徒にも根付き、教員が授業力の向上に取り組み、生徒も授業を理解するために予復習などに全力で取り組む相乗効果が高い満足度を支えていることがうかがえる。保護者7「子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている」：76.5%（同-3.3%）となり、生徒はただ楽しくわかりやすい授業を求めているわけではなく、思考を深め、好奇心・探究心を満たすような授業を求めていると考えられる。補習・講習に関しても生徒8：92.6%（同-2.9%）、と一定の評価を得ている。教員に対しては、引き続き「桃陰塾」「公開研究授業」「授業力向上の会」などを通じて、「授業第一主義」の意識を高めていきたい。

今後の課題として、生徒7「授業だけで進路希望達成に必要な学力がつく」：77.6%（同-1.7%）という部分に関して若干数値が低くなっており、生徒自身が学校の授業で進路実現が可能だということを感じられるよう、今後も教員間での情報交換や様々な教員研修などを通して授業力向上の取り組みを続けていく必要がある。

生徒指導部

生徒に対するアンケートにおいて、生徒指導に関するほとんどの項目で、肯定的数値が出ている。個別に見てみると、「学校に行くのが楽しい。」が91%、「学校での友人関係はうまくいっている。」96%、「部活動に積極的に取り組んでいる。」が94%、「学校行事全般に対して積極的に参加している。」が93%であった。おおむね学校生活に積極的に参加し、良好な人間関係を築けているようである。また、「部活動と勉強との両立ができています」という生徒は79%で他の項目よりも低い傾向が例年あるが、水準は横ばいである。

生徒・保護者に共通して、行事や部活動の学校生活に関する満足度の高い数値が出ている。生徒質問「学校行事の多いことは本校の特色として魅力的だ」が95%、保護者質問「部活動は活発である」は98%と高い値を示している。これからも本校の特色である行事・クラブも活発に行えるようにしていく。

保護者の意見について、「生徒指導方針に対する共感できる」が90%、「学校の雰囲気がよく、子供たちが生き生きしている」は、96%と高い数値を示している。しかしながら、「学校生活についての先生の指導には納得できる」のポイントが82%と昨年度から4ポイント上昇し、2年連続上昇で合計8ポイント上昇となっている。数値だけでなく記述においても肯定的な意見もあれば、改善を求める声も上がっている。これからも生徒にとって何が大切で必要なかを軸に校則について教員・生徒で考えていかなければならない。

進路指導部

生徒の結果の分析について、「将来の生き方や職業選択について考える機会がある」が96.0%（昨年比+0.1%）、「専門家の講演会や大学の見学などの行事が豊富」が95.3%（同+3.1%）と高い数値を得ている。進路決定をする上で、大学入学後や社会人でどうありたいのか、自分が何をしたいのかといった目的を意識させることを今後も継続し、機会の積極活用をしていくように意識させていきたい。

保護者に関する項目も同様に高い水準を得ている。「教育情報について提供の努力をしている」94.2%（同+0.6%）、「進路指導面で家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」が86.2%（同+5.9%）であり、進路通信・学年通信などの発行や進路講演会、保護者集会での講話による効果があるのではないかと分析している。

桃陰セミナー・部学習・土曜講習についての項目の数値が下がっていた。自学自習のための土曜活用を生徒に意識させていくとともに、桃陰セミナーの位置づけ、運用方法について改善策を検討し始めている。

保健部

【相談活動】生徒回答のうちで「いじめや学校生活の悩みに親身になって応じてくれる教員がいる」の肯定的回答は90.7%、「相談室や保健室に行きやすい」の肯定的回答は72.8%、保護者回答のうちで「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」の肯定的回答は88.7%、「子供の心身の健康について気軽に先生に相談できる」の肯定的回答は83.5%である。「相談活動」について、昨年同様高水準を維持しているといえる。ただ、相談内容について、きめ細かな対応を必要とするものが増えており、研修等を通じて教員の対応力を向上させることと同時に、学校全体での相談体制の充実が求められる。

【美化】「清掃活動に取り組み清潔が保たれている」に対する生徒の肯定的回答は81.6%で昨年同様高水準である。引き続き、大清掃やクリーニスト活動等を通して、清掃を自らの生活習慣に関わるものとして捉えて、環境美化の意識を高めるように働きかけていく。

【安全】別途実施した安全点検の結果も受けて、危険な箇所の補修・整備に努めている。「施設・設備の適切な整備」に関する項目について、生徒の肯定的回答は79.2%で昨年度より約8ポイント上昇している。ただし、トイレ、消火栓・非常口のライトを含め依然として施設の老朽化に対する心配の声もあるため、可能な限りの改修がなされることが望ましい。

企画渉外部

保護者の「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」95.4%、「学校は、保護者が授業を参観しやすい工夫をおこなっている」91.4%は、年々上昇しており、コロナ前の水準を上回った。授業参観を含め各種行事で、制限をなくしコロナ前と同様の方式に戻したことがこの結果につながったと考えられる。授業参観については、参加者が多い分、教室内で収まらないことが多くみられるため、より良い方法を模索していきたい。

「PTA活動には参加しやすい」についても、コロナ前の水準を上回っており、保護者の理解を一定得られていると考える。これからも保護者にも学校教育について協力してもらえよう連携をはかっていきたい。

今後も、保護者に対してはもちろん様々な面で開かれた学校となるよう努めていきたい。

GLSSH

生徒アンケートでは肯定回答が 92.5%であった。本校独自のイベントだけでなく、多種多様の外部イベントが実施されており、生徒の主体性やキャリアデザイン等に有益かつ貴重な経験ができるイベントも増えてきている。生徒への案内は担当者で精査し、少しでも多くの機会を提供できるように今後も活動していきたい。また、今年度は他校との交流を積極的に実施した結果、大きくポイントを上げることができた。保護者アンケートでは、他の学校にない特色ある教育活動の項目や環境・国際理解・福祉ボランティア等の新しい教育課題の項目等で高い肯定回答を得ることができた。

その他の関連項目においても高い肯定回答を得ており、本校のキャリア教育の根幹である GLSSH 事業のさらなる深化をめざすことで、グローバル人材、科学技術人材の育成を図っていく。